Green Brave 10th Anniversary
Powered by HANKOOK
Super Taikyu Japanese Endurance Race
ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022
Powered by Hankook 第 7 戦
SUZUKA 5 時間耐久レース
＃52 埼玉トヨペット GB クラウン RS
2022 年 11 月 26 日（土）～27 日（日）
鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）

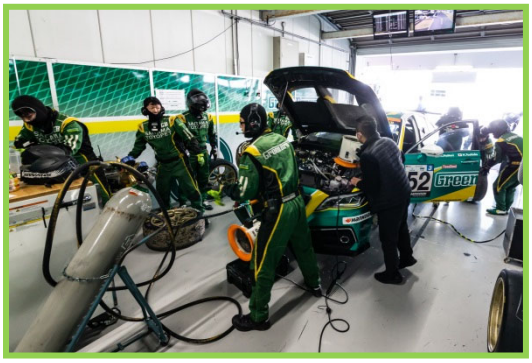
■レース序盤にまさかのストップ。ライバルに逆転され、ランキング2位■

スーパー耐久の第 7 戦が鈴鹿サーキットで行われました。ST-3 クラスのエントリー台数は 5 台。Green Brave はレース直前、今回のレースがクラウンRSのファイナルレースであることを公表。文字通り、ST-3 クラスのチャンピオンを賭けたファイナルバトルとなりました。なお、前戦終了時点で 2 位の#39RC350 に 20 ポイント差をつけ、ランキングトップをキープしています。

予選日（土曜日）の天候は曇。予選は 13 時から行われ、A ドライバーの予選には服部選手が出場。赤旗中断後の残り 8 分の時点でコースに入ります。服部選手は 3 周目に 2 分 17 秒 331 をマーク。2 台のレクサス勢に次ぐ、3 位につけます。B ドライバー、吉田選手は予選開始の合図とともにコースイン。3 周目に 2 分 15 秒 961 のトップタイムをマークします。両ドライバーの合算タイムにより、予選は 2 位。予選 1 位は前回ウィナーの#63RC350 で、3 位がチャンピオンを争う#39RC350 です。C ドライバー、川合選手は決勝を見据えたロング走行時のペースの確認を行い、2 位。

決勝結果（ST-3 クラス）
＃52 埼玉トヨペット GB クラウン RS
（服部尚貴／吉田広樹／川合孝汰）
決勝：リタイア（22 周、1 時間 01 分 43 秒 572）
予選：2 位（合算タイム 4 分 33 秒 292）

決勝日（日曜日）の天候は晴。決勝は全クラス混走による 5 時間レースです。チームはクラウン RS の燃費を考慮し、川合→吉田→服部→川合とつなぐ、4 スティント作戦を立案。ピットインの際は必ずタイヤ交換を行い、5 時間後のチェッカーを目指します。スタートドライバー、川合選手はポジションをキープして 1 コーナーへ。スタート直後にコースアウトするクルマがあり、1 周目から FCY（フルコースイエロー）が導入されます。2 周目に FCY 解除となり、レース再開。#63RC350 が勢いよく飛び出しますが､川合選手を振り切れるほどではなく､1 秒から 2 秒くらいの間隔で周回を重ねます。16 周目に 2 回目の FCY が導入され、17 周目から SC（セーフティカー）導入。川合選手がピットに入る気配はなく、SC の隊列の中で走行します。20 周目からレース再開。川合選手は変わらず#63RC350 のすぐ後ろを走行しており、#39RC350 は 4 位を走行しています。しかし、クラウン RS は 23 周目のスプーンコーナーで突如失速し、バックストレートのイン側に停車。川合選手は無線で「エンジンが止まった」と訴えており、ピットからの指示に従い、エンジンの再始動を試みます。しかし、エンジンはかからず、時間だけが経過。クラウン RS は自力で戻ることができず、オフィシャルのクルマに牽引されてピットへ。この時点でリタイアが確定します。



ピット内では修復作業が続いており、店舗メカニックが慌ただしく動いていますが、エンジンは始動せず。スタッフはチャンピオンを争う#39RC350 のレースの行方を見守ります。#39RC350 は 2 位をキープし、チェッカー。両者のランキングは逆転し、Green Brave は 2 ポイント差の 2 位。チャンピオンを獲得することはできませんでした。とはいえ、6 戦 3 勝という今年の成績はチャンピオンに相応しいもの。クルマという機械を使う、モータースポーツの怖さをあらためて思い知り、チームは新たな一歩を踏み出します。

©2022 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.

DRIVERS VOICE

【服部尚貴選手】
すごくショックですが、本当に何があるかわかりません。自力で戻れない以上、リタイアです。残念ですが仕方ありません。一番大事なところで何かがグズってしまい、本当に残念です。1 つのパーツがトラブったらこういうことになるのはモータースポーツの一番怖いところですし、一番くらいたくないところでくらってしまったのが実際です。今シーズン、3 勝はしましたが、チャンピオンをとれなかったのは事実ですから、今後に向けて、しっかりと進めていきたいと思います。

【吉田広樹選手】
自分と服部さんが乗れなかったので、非常に消化不良で残念です。毎レース、一生懸命やっていますが、たまたま最終戦だったということで、より逃した感が大きいです。これもレースと思うしかないです。チャンピオンをとったチームは、速さと実力のあるチームだと思います。今年は自分たちが足りないところを出せたと思っているのですが、最終的にこういう結果になってしまいました。自分たちにまだまだ足りないところがあると思わないといけません。

【川合孝汰選手】
自分なりにかなりマージンをもち、燃費を考え、集団をうまく避けながら 2 番手を走っていました。1 時間経過後のスプーンカーブの一つ目で、加速ができなくなりました。車内でいろいろ試したのですが、エンジンは止まっている状態。リスタートを試みたのですが、エンジンは復活せず、そのまま終了となりました。過去 3 年間やってきましたが、このような経験は初めてです。今年は 3 勝したのですが、それが今回のたった 1 戦で消えてしまうのはなんとも歯がゆいですね。

MECHANIC VOICE

【川越北支店・星野智秋】
サーキットの雰囲気、とても緊張しますね。最終戦に立ち会うことができ、楽しみにしていました。店舗でもクラウンを扱っていますが、中身が全然違うのでビックリしました。自分は給油担当なので、あまりクルマに触ることはないかなと思いますが、力を尽くしたいと思います。普段の仕事で味わえない経験なので、ここで得たことをお店で活かせると思います。

ST-3 クラス 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1 位	TRACY SPORTS RC350 TWS(レクサス RC350)	113 周
2 位	エアバスター WINMAX RC350 55 ガレージ TWS(レクサス RC350)	112 周
3 位	raffinee 日産メカニックチャレンジ Z(日産 フェアレディ Z)	110 周
リタイア	岡部自動車フェアレディ Z34(日産 フェアレディ Z)	80 周
リタイア	埼玉トヨペット GB クラウン RS(トヨタ クラウン)	22 周

出走 5 台

ST-3 クラス ポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1 位	39	TRACY SPORTS with DELTA	136.5
2 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	134
3 位	63	TRACY SPORTS	99
3 位	311	FKS team fukushima	76
6 位	25	TEAM ZEROONE	49
5 位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	41

PARTNERS

赤城車体工業株式会社
EMG ルブリカンツ合同会社
株式会社エヌ・ティ・コーポレーション
株式会社 FM NACK5
株式会社岡崎巧芸
株式会社カーグラス・JP
株式会社カロッツェリアジャパン
埼群スリーボンド株式会社
株式会社三和広告社
JU 埼玉オートオークション株式会社
株式会社西武ライオンズ
株式会社タンエイシャホイールサプライ
株式会社デンソーソリューション
株式会社ドーム
トヨタホーム東京株式会社
富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
株式会社プロモーション
株式会社プロモーション
丸和工業株式会社
Mechanix Wear LLC

©2022 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.